

四天王剽盜異錄 前編

974
1.0



世亭主人著

丙

四天王剽盜異錄

歌川豐國畫

四天王剽盜異錄序



山本

三林
本助

夫史之絕筆尚矣。加旃應仁以降。海內騷擾。諸家之記載。散佚而不傳。故君臣行事之得失。言議之往復。曲據多逸。天下昇平。靖治二百年。有餘年矣。英奇之士。崛起於其間。著其所。閉將相祖述。不啻五車而已。葛藤上添葛藤。為蛇足。再畫徒弄。臺榭供。塵譚耳。憶昔予總角時。比舍有閩生某者。家富。歲書予一日。就生借得一奇書。名遠聞。

川...

錄而共載作者之名字其書錄自天慶至
 永延源家名臣及魁賊袴瘞之事蹟而以
 其說與野史所傳頗異雖未嘗詳其虛實
 治亂得失瞭然猶見當時也時移事易俛
 仰之間頓成今昔惜哉生已沒而不知其
 書在何人之手因普搜之坊賈而終不獲
 今茲予友梅柯生者豐前州人也遙贈缺
 本若干卷云獲之崎嶇即予所嘗寓目而
 閱生收藏印記存焉不憶是書自函西干
 里之外而歸于予之架上也雅出囊篋之
 數本是不擇頭殘竹爨下焦桐豈不奇哉
 於是予喜可知也嗚呼行事之得失保若
 遺烈顧可使其湮沒而不彰乎又歲久侵
 蝕漸次漸滅心竊憾之頃取其書較度修
 飾有參以免道拾遺及軍記補其缺是則
 史氏之遺意也乃不日編成因題曰四天
 王剽盜異錄相傳源家四臣以其勲業取
 于須彌四天世稱之四天王惟其說無及

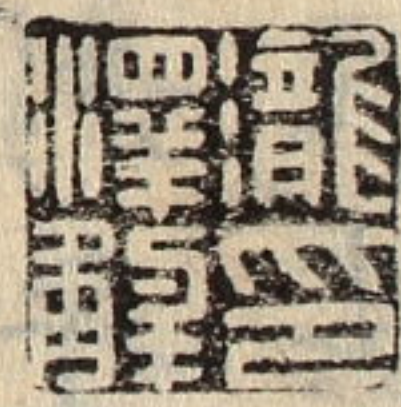
東坡全集 卷之一

四天王

括姑^テ泛^ニ其^ニ舊^ニ而^メ存^ス于^ニ此^ニ云^ニ再^ニ
文化新元冬至除夜燈下書於飯臺叢笠
軒^ニ

江戸

著作堂禪史



北入/3
974
卷

四天王剽盜異録總目錄

卷

第一綴

藤原致忠總州下向の談

附 真風太郎節折女が事

苦節を感して致忠嬰兒を助る談

附 信州更級郡姥捨山の事

岐岨の棧舟正通妖婆を拉く談

附 弓矢村橋平孝子荒太郎が事

道魔法師暗小六郎二を懲と談

附 妙藏尼能臙磨を相と取事

卷

第三綴

二

第四綴

卷三

第五綴

白浪坂小六郎二關子を養ふ談

附 彌介如少く竊疾の事

三圓の金殺見頑父を謀る談

附 女児深雪枉死の事

第六綴

関山小六郎二深雪を瘞む談

附 荒太郎不意父の仇を報事

第七綴

荒太郎一拳み三の狼父撃事

附 橋平靈を頭くその鬼を救事

第八綴

弥介單身あり華洛小趣談

附 関太郎兄弟術師行元が事

第九綴

和泉式部稲荷山小詣談

附 保昌惣察弥介を臈丸と知事

第十綴

袴垂保輔和泉式部を挑む談

附 善時を誑保輔數萬金を盗事

第十一綴

多田の前裁田殖少女の談

附 卜部季武後園小鳥と射事

第十二綴

保輔偽多田の城使を談

附 姫松悞て賊船小誘ふ事

第十三綴

術を傳く道魔術を死せぬ談

附 二條河原保輔鬼同を賣事

第十四綴

卷六

卷五

卷四

卷三

卷七

卷八

第十五綴

市原野小綱鬼同丸を走らざる談

附 足柄山小頼光危難を脱する事

上總國府小公時姫松を救ふ談

附 滋津の池神血食乃事

卷九

第十六綴

思命を吞み平太郎良縁を締談

附 碓氷巔小季武荒太郎を知事

頼光病休小女童を斬り談

附 画佛尼喝し保輔を退る事

卷十

第十七綴

保輔黨を卒く堀河院小乱入を談

附 四天王勇敢衆賊を殲する談

卷十

第十八綴

説石尼義小仗保輔首公匿談

四天王勸賞源家繁昌の事

卷十

第十九綴

統計二十綴

全篇十卷

附言

全編

朱雀帝の天慶三年小起り

一徐帝の

永祿元年并盡春秋凡四十九年諸傳の年紀おほく舊説小

合とつども亦前後さすの如無ふもあはれど街談巷

説考据を缺因り姑く原本よ做ひて更改せしむ

四天王剽盜異録總目錄畢

源家名臣四天王肖像

勘解由判官下都季武



主馬佐酒田公時

能因舎人渡邊綱



韋負尉碓氷貞光

源の
静
あ
あ
あ
あ
あ

あまの江

乃

水後

れ

小次郎

と

孫



関の太郎

袴垂保輔



関の次郎



みの

の

風

新

藤原齋明

袴垂保輔延黨於緑林圖

新編

義経

卷之六

六



四天王剽盜異錄繡像總目次

○源家名臣四天王肖像

右二頁見
于卷端

○藤原致忠詣淺草寺圖

○感恩節折刺朧丸圖

○陷谷正通除妖圖

○妖婆冤魂憑朧丸圖

○道魔客店讓寢室圖

○榎木諫夫養闌子圖

○六郎二誘客賣劍圖

○深雪被欺溺死圖 卷之

○荒太郎一箭射六郎二圖

○橘平寬魂告往事於兒圖 卷之

○行元熱田賣藥圖

○保昌勇敢暗伏彌介圖 卷之

○小式部内侍詠歌答定頼卿圖

○保輔會郡賊於三條河原圖

○季武後園憐姬松圖 卷之

○得姬松保輔出多田城圖

○擲杖道魔涉龍野川圖

○袴垂保輔延黨於綠林圖

○致忠旅館鞠問偷兒圖

○老婆愛惜啖孫屍圖 卷之

○橘平宵谷索行人圖

○荒太郎郊原走馬圖

○安計呂山妙藏尼導節拏圖 卷之

○七歲兒拉偷食果子圖

○彌介棄劍殺八郎五郎圖

○孝子荒太郎事母圖

○荒太郎一拳擊三狼圖

○彌介試関太郎兄弟圖

○和泉式部避雨於稻荷山圖

○小式部一言救母圖

○使高倉齋明入狗偷隊圖

○滿仲朝臣前裁催殖田遊圖

○延尚大戰久我繩守圖

○風濤難船人欲投姬松圖

○保昌定計燒賊寨圖

保輔鬼同九大闘術圖卷之七

○市原野渡邊綱射石牛圖

袴垂欲狙擊頼光朝臣圖

頼光足柄山齋熊蛇之戰圖

怪童丸赤裸閑季武圖

飛樓公時阻血食圖

捕行元公時毀淫祠圖卷之八

○姫松再會季武圖

碓氷北橋荒太郎頭勇力圖

頼光病牀斬妖童圖

袴垂保輔夜劫茲心寺圖卷之九

○堀河院四天王剽群賊圖

碓氷貞先生拘保輔圖

和泉式部進歌於性空上人圖

四天王勸賞授爵圖卷之十

統計出像五十又一頁

四天王剽盜異録繡像目次畢

源家 勲績 四天王剽盜異録卷之一

東都

飯台 曲亭主人著

門人 魁 蕃 癡 叟 校

第一綴

藤原致忠 總州下向の談

附 真風 太郎節折女が事

粵小人皇六十一代朱萑天皇の御宇カリクン。下總國の任人繼口小次郎
 平將門國の八州小逞威と振ひ驕奢日々小超過して獲嶋郡石井郷に宮闈
 と營と造り。いづる國東の親王と偽号し勢既小破竹のぞく。遂に常陸國
 土浦の城を拔く平國香を攻めろぼし下野の國府武藏箕田の城を隔てて
 関左ははとのふ小属しねこれの五七年東國大乱に民は民の業は
 勤しむる皇都も先づして注進をばく天德公驚し奉れ三公百官

會議ありて天慶三年二月朔日。參議右衛門督藤原忠文と征東大將軍と
 散位武藏守源経基刑部大輔藤原忠舒と征東副將軍と中議の節會
 行きて郎刀并鈴谷賜り朝敵追討の宜下ありければ諸大將謹て勅命を
 稟弓場殿の南の小戸より退かざる相從ふ人々右馬權頭藤原致忠右京亮
 藤原國幹大監物平清基於理進成孝散位源就國清原滋藤原源仲定純
 伊勢前司忠素ととりわけし。宗徒の猛將二十餘員その勢四方二千餘騎。
 二月二日小都ととらぬ關の東に進獲をかくて官軍の勢も馳加る軍兵は
 待のいせはほふ。忠の外日數つりり。二月十五日の曉昏は駿河より富士の
 裾野小都よりしが。なほ諸國の軍勢を催せり。清見が關は陣を布具く
 る小逼田より是より先彼比小常陸大掾國香の長男上平太貞盛下野
 押領使藤原秀郷小將門合戦一勝負致度及ぬ。妙小いぬ。十四早嶋の
 一戦小御方より勝。將門はも。一族部等小至るま。悉く討つり。
 擾乱頗る靜謐なり。五日のち貞盛の書翰到来。清見が
 關の陣中小出りければ。節度使の下向忽ち徒來とあら。諸軍ひりく
 歸洛せんとき。時。惣大将忠文藤原致忠は振々つり。貞盛
 秀郷が武功より。初敵一時小滅亡。率公私の大幸。あふ。あう。ハ
 わと。偶追討の勅命と奉り。斯大軍公真。最の一條も度。さ。さ
 の。い。次。敵國の形勢。亦。歸洛不及。人。ふ。の。奉。然。同。り
 と。答。ふ。言。を。下。足。下。ハ。武。略。の。達。人。小。抄。を。い。は。れ。彼。地。に。馳。り。
 貞盛は。相會して合戦の次第とも。考。へ。將。門。が。殘。黨。を。討。て。匿。し。
 つ。つ。搦。捕。り。て。傷。難。を。防。ご。り。る。べ。と。餘。議。な。れ。休。む。を。致。忠。に。郎
 領。掌。し。て。諸。軍。小。引。し。り。手。勢。僅。は。百。五。十。騎。を。率。て。二。月。下。旬。下。總

藤原致忠
詣淺草寺圖

川盜集

卷之一

四

川盜集

卷之一

三



追蒐と焦燥と二人の従者も東西小走せしむ。その時一人の郎亦將く己は
 御んをさるる時春の目やうや西は没ぬかして致忠の元陣所より幕をら揚
 つへるをまれば正徳の庭小舞はたは焼く怪しげなる大漢とつて縛りて
 そのほろりよ年紀二十むらむ姿白くは艶る女子坐は涙をこぼる
 つひのまをむき何者ぞと同時小家久介は郎亦は沼田正通とつひの
 忙しむむ。それが黄昏小御陣の外と検巡るところに小侍の男一足
 馬小の女を乗せ南の街を走らる。その客もあやうくかひり何れぞと
 外をば彼應むとてまて走るとい癖者述すと追つた引捕へ何ん
 なくその馬をえんは是主君の珠馬なり。かかひり再び問むと賊
 あるとあさううなれば歳々も来歴と責問とをいふまて白状せり
 て君の御りもよか待と。事をとらるる思ひ彼首は縛られたり。致忠は

由公聞くとふらららび浅草寺へ馬と女ひくる始末を物とら
 してやう正通が頭智公賞つて彼女が形容をみる。賊の妻も
 思われども。由来を問ひ。車速よりと思量しをく
 女公招き言とやうけ。行は是何國の人を彼賊とい原相知る
 り。何の故よ。馬をさるる走り。明小告ると。女子
 ははやく顔もあはれ。とくひひあり。致忠とむく騙
 とし。あはれ。この女子中涙をこぼる。下總
 國磯橋の郷士猫実氏の女見て。名は節折といふ。あるが。年
 将門朝家も謀殺を。近國の武士と相語。時。父の
 彼悪逆を憎む。その催促に従て。将門これ怒り。忽ち父母
 兄弟を殺す。その時。一人。逃げ。命の

驚けども驚ぬぬのよぶあれたる月久るるなき家ありあく嶋廣山の麓よ
 些の由縁あるが傍りよりさき年月を抄りしふこの十三日の夜軍
 小嶋廣の民家いよべて焼失られ頼一人の往方もなきねがりの村里
 一この山麓よ呻吟しぬあきかかれ男がより多く誘ひころの地方まで
 得くすありぬ表れ救をせりしとて声もつとに隠りて只顧神の比
 々致忠これぬやゆりゆり嘆息かき彼者が奸悪分明なりと
 のいも片言の訟と定ごううらび渠奴を拷問さしと命を折し
 二人の従者の終小馬を索りしとてゆり来りたる馬の息なく
 主小入りその賊を正通が搦得たりとせよとやうくおくさる憎一吾儕
 小任せりといさまたけく賊を庭の松の枝に縛とす百杖をうりぞ
 鞭うちたるごごめいの程あるはらりるが苦痛もや堪ざりらん權く

責ぬ寛も首伏すとて叫びぬれば致忠下知してこそと搦り下
 させその幸に同されぬ賊のいへりそれ真風太郎とふ山客なり
 この嶋廣山の麓ありこの女が甥掣一都のうら賣づくさひこの地
 狩り来りし女足のひあてて更なるもつづがれが松路ぬや登らんと
 この浦回を徘徊し浅草寺の辺あり駿馬ぬらん知これ忽ちありやうこの
 馬は女がをせり走り程ありふ日東道百里ありの轉り行へり
 後又馬ぬも焦りありあつたのまふ將の死あんと假初の偶意なり馬ぬは偷に
 さうひぬに十分の佛眼をり大義大悲の垂れを託りたるそのつとあり
 節折の言は違はれぬ致忠その夜真風太郎が官門河原より首を削
 せし只管節折がうらかたを憐れこれぬが都小將より致忠に見て
 あり長男齊光の今茲十四歳よりなり二男保昌このありのいさ吉松丸といひて

川流異録

卷之一

五

致忠旅館
鞠問偷
兇圖



八歳之内室の元明親王の御女なり。人間の種あり竹の園生の枝葉も。毎常の風は逃まがく。去年の年極雪折の直ぐ。消く雪景より。致忠の寝をえさす。節折は側室とて。期は暮る。浅く。節折は。いくは。その年の冬。男児は産。り。その見生。首は黒癩あり。雲月は。彼女が志前毒。致忠は。節折は。澤枯の思。他の児我児の隔。齊光。情を得。是。致忠の光景。彼女が志前毒。乳母の。致忠の。勝。己。奴。附

第二綴

附 信州更級郡姥捨山の事
昔節を感じて致忠嬰兒を助る談

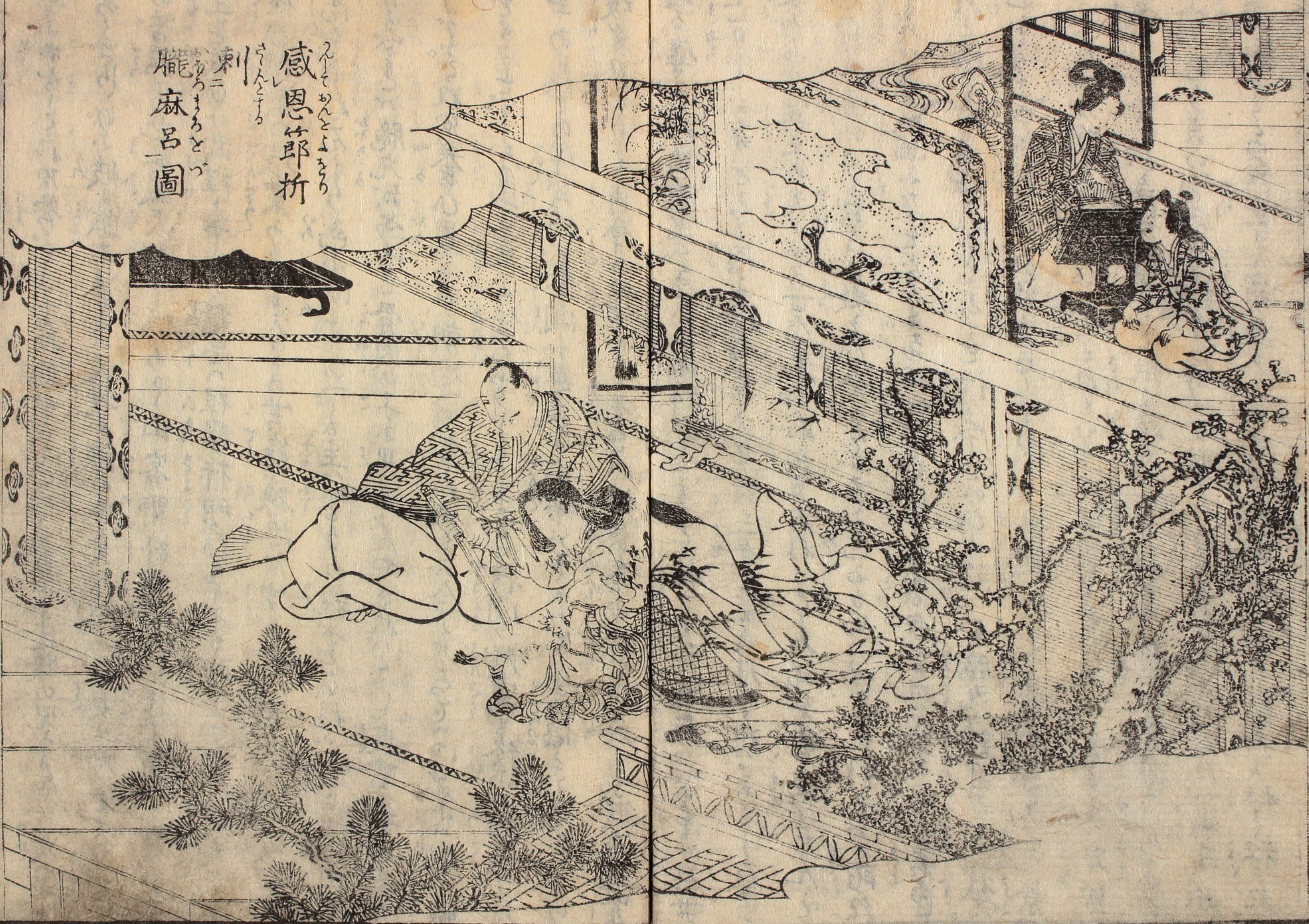
かくて二三年の月日。天慶五年二月十五日の暮。致忠は。曠昔より禁闕の宿直。この朝。二人の児。父が。勤は。節折は。生卒。怪。小。未。何。愁。生。何。解。涙。

ち。回答もえせぐ。あうり。折も。迎ふ。人か。け。中。あり。げ。なる。頭。
 握。か。商。り。の。あ。る。君。情。を。仇。と。も。う。ろ。の。歎。た。色。ふ。出。て。今。同。く。を。
 い。ざ。れ。ば。その。罪。ま。ら。く。深。く。べ。い。り。ぞ。や。か。ん。事。あ。ね。ど。秘。り。く。も。苦。
 く。語。ふ。不。序。な。り。と。い。は。り。か。ん。ず。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。
 一。の。と。う。ち。武。藏。權。守。貞。世。が。後。妻。か。り。も。う。の。彼。家。の。嫁。り。も。う。の。春。天。慶。
 三。年。如。月。の。合。戦。小。貞。盛。秀。郷。勝。は。今。分。か。う。と。う。ん。え。一。時。貞。世。潛。よ。り。
 々。い。の。の。御。運。已。に。傾。た。り。へ。命。も。二。三。日。の。う。ち。ふ。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。
 貞。世。十。五。歳。か。り。の。か。ら。り。の。ま。が。冥。土。の。供。奉。と。も。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。
 敢。て。死。と。あ。ら。ぶ。べ。い。は。り。か。ん。ず。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。
 一。の。と。う。ち。小。達。り。の。何。國。の。人。か。も。身。が。頼。り。も。う。の。見。の。生。と。も。い。は。る。と。も。
 一。の。と。う。ち。勝。る。操。を。も。と。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。

う。た。め。ら。う。つ。べ。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。
 一。の。と。う。ち。思。へ。涙。は。る。も。う。の。家。隸。堀。江。武。程。と。も。い。は。る。と。も。
 の。彼。誰。時。は。鳩。原。山。か。も。う。の。中。一。日。か。も。う。の。十。四。日。か。も。う。の。
 一。族。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。
 一。の。と。う。ち。この。戦。場。に。在。り。も。武。運。小。嶋。と。も。い。は。る。と。も。
 一。の。と。う。ち。伊。南。の。農。民。は。生。捕。り。も。あ。る。と。も。い。は。る。と。も。
 一。の。と。う。ち。許。我。の。は。り。も。立。馬。と。も。い。は。る。と。も。
 一。の。と。う。ち。人。か。も。う。の。伊。豆。相。模。の。り。も。武。程。が。親。と。も。
 一。の。と。う。ち。赴。く。べ。い。は。る。と。も。い。は。る。と。も。
 一。の。と。う。ち。ひ。も。う。の。端。を。も。正。通。と。も。

これぬ。あつる武程豫し。敵小怪も。擧るる。なす。つれぬ。
女子瓜拐掣り。山容の体は誰く。武程は。の。ひ。り。も。
憐れ。心。か。の。宣へ。謀。教。君。と。問。し。時。
さい。彼。命。危。い。実。告。主。従。ひ。て。ん。の。惜。ひ。
足。と。い。も。夫。の。遺。命。と。武。程。が。忠。義。を。思。ひ。く。
つ。と。い。び。ん。と。又。つ。と。い。た。も。武。程。が。眼。を。諭。す。
中。義。の。家。隸。を。見。ら。し。て。仁。ある。君。と。欺。れ。不。義。を。斬。り。
後。不。意。君。を。情。と。う。け。あ。る。遺。腹。あ。る。事。を。告。ぐ。て。鬼。の。安。穩。と。謀。り。
し。二。つ。の。り。の。人。を。思。あ。る。君。を。連。累。し。て。長。く。せ。
進。も。下。の。不。義。を。三。つ。ま。り。こ。の。不。義。あ。る。と。い。は。り。も。思。ひ。の

ぬ。辱。を。思。ふ。と。あ。り。罪。科。を。悔。く。毎。月。の。皇。世。
が。七。日。と。あ。る。雨。の。神。ぬ。し。が。三。年。の。月。を。な。り。し。
又。お。う。一。具。土。の。夫。と。の。世。乃。君。不。恥。辱。も。あ。る。と。方。秘。を。告。進。し。ん。と。
思。ひ。の。難。い。教。を。ひ。く。と。色。あ。も。出。は。り。な。さ。り。ま。し。詔。を。
な。ん。が。身。を。醜。か。き。も。あ。は。飽。を。お。ぼ。え。ん。が。男。鹿。の。角。の。束。の。も。君。あ。
れ。と。禱。ぬ。事。い。れ。あ。を。待。べ。と。の。ひ。も。詔。を。臆。丸。が。護。身。刀。を。引。抜。て。
己。お。も。る。瓜。刺。ん。の。致。忠。い。た。め。り。黙。然。と。居。り。し。が。光。景。
か。ち。驚。た。や。や。待。節。折。れ。の。ひ。り。の。さ。い。ひ。り。の。刀。が。
奪。と。う。さ。び。声。を。低。り。て。往。は。臆。丸。が。生。る。時。の。月。足。を。廿。二。月。と。
つ。と。あ。り。し。と。又。を。疑。る。た。め。あ。り。と。故。あ。る。と。く。あ。み。ね。の。竊。盗。を。
ら。舉。動。し。ら。る。瓜。を。く。窺。ふ。し。子。の。り。心。動。の。こ。ろ。に。は。れ。は。し。く。私。に。



感謝節折
刺
朧麻呂圖

心小忠とこれ外無きとさうね顔わしうらふが真世が透腹の見るんこの交わつても
あつざらげふ彼は誠ありのめへ又我小誠あり真世破りて真は帰とさるの来末
の若節より真風太郎と偽りて山客野卧の汚名を送り身とらりして
主を救ひ武程とやんが精忠に程嬰拵曰がひしおも恥とさるた丈夫かり
縦ひ朝敵の残黨おもあま今も苦節孤忠を切つてあまこれと殺す小
心とこれえしり色小濁とさるも主法とまり親子とかなるもこの世の因果
かづかきば膾炙あつと骨肉の子小異するんやさんいごとく真世が妻子もさる
うらふこれ孤養ひ置る朝廷のあされあま今もさるていけさる氷く暇
とさるまじりありつよ主上仁徳あつとまじませば將門が残黨も終小の勅免され
事あじその序得の奏聞母子が安堵とさるつらん言偽るる證小この
護身刀とりの再會の信とせよ是これ延長年中唐山の石とる鍛冶筑紫

へつら来りし時造りおせし短刀あり鞘金の半月かりこれ分鏡の
契りの形ともふと薄と彼名は月朧も晴る候待べりこの言を
りらひどり面のあつり自害せりつと怪いふとこれを神小付するんが
都く不義の女子と思はん自他の吉凶この期ありつとわと回答と
説訖と彼刀を遁与るが節折の飽まゝ慈悲とせん主の恵は思ふやと
まが身取しつらんとさる胸とさるが真掌とさる合せと泣音も出り
たり致忠は彼がやち死なせとらりしとさるその序はとら出潜は沼田正通
死むびとさるの奉公あつらつた今彼が首なうとさるも一旦食ひ
らる罪は免るべたおもあま世の胡慮とさるべたあまひとさる死なせとら
これ孤妻のれはゆかるとさる外も今宵の中節折母子はほひ出
中も都遠に國を送りてはつた後ひこの奉後とさるこれ罪せつら

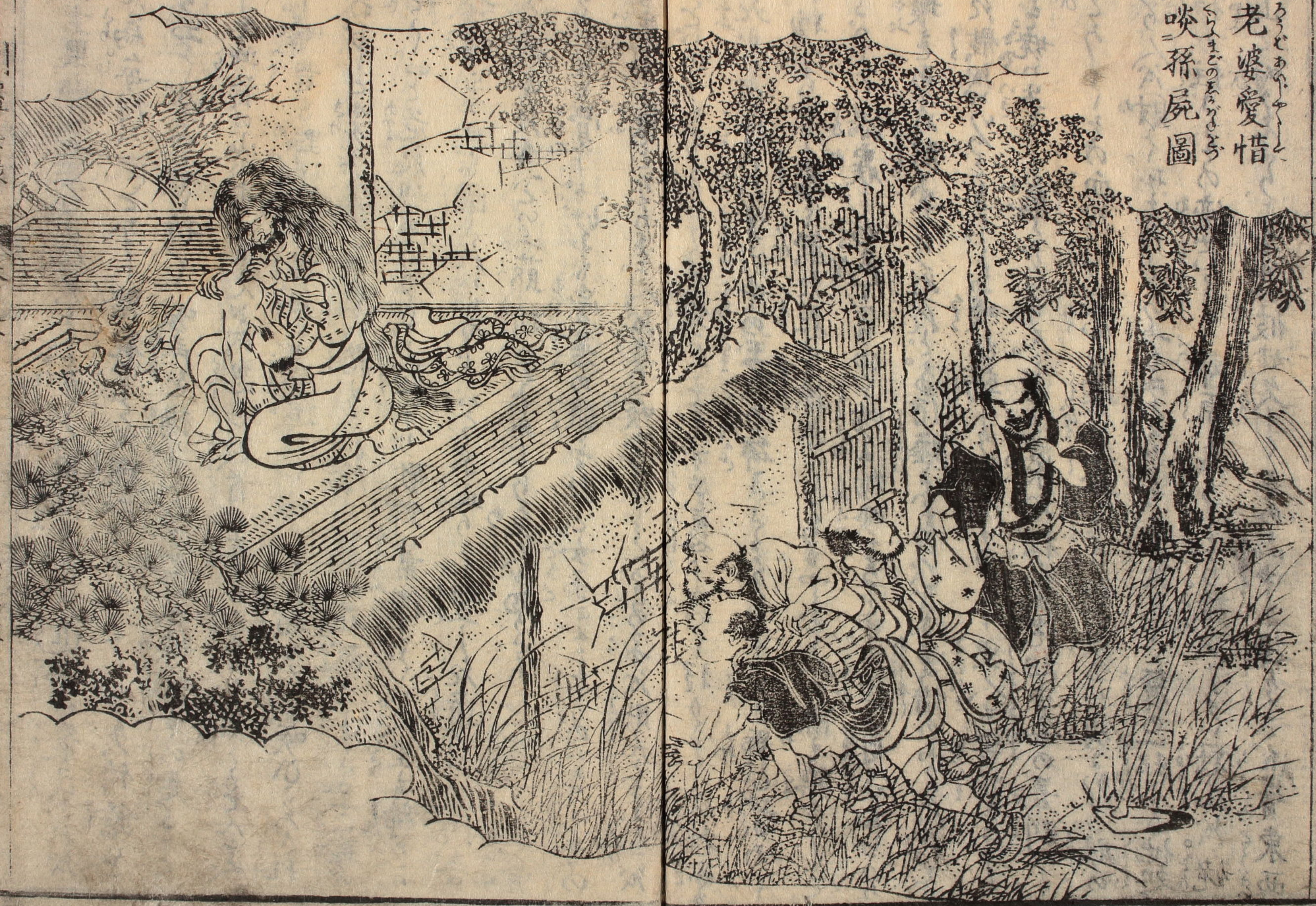
事ありといふも。今ふ至りて彼を殺す。大丈夫の所為あり。歎の難る
 処いふもなき。汝何とや知り。正通うち驚愕す。誠小思ひし
 ざる椿幸なり。それか父母の元上野國沼田の郷のりあるが父母
 没し。既久しといふも。彼地よこそるは親し。友いふれ其許小
 はひり。さるゝといふ致忠點頭す。とまれかくまき汝がうら小任とて。
 されぬ。彼が身命と誓ふ。とす。とせ。とせ。金子百両。必
 遍与し。別小路貫金。とせ。せられ。正通俄頃。行装し。その夜人
 定り。のら。節折母子。誘ひ。し。あ。び。や。ふ。起。程。り。され。ば。節。折。が
 往方。あれ。ど。かり。と。正通も。又。ち。り。小。亡。命。と。推。量。し。郎。小。奴。婢。と。ま
 くれ。と。あ。ま。笑。ひ。彼。女。子。が。の。来。来。真。実。中。小。給。ゆ。せ。し。主。の。ろ。ろ。灰
 蕩。ん。為。の。新。計。と。あり。と。八月。子。生。り。し。幸。と。め。り。怪。し。う
 思ひし。果して。せ。り。た。女子。ど。し。こ。も。武。界。富。り。る。主。君。知
 詭。の。課。せ。る。飽。足。と。正通。と。奔。り。ぬ。何。ゆ。ど。か。る。淫。婦。の。り。れ。ハ
 ち。筑。摩。の。鍋。の。敷。も。ま。ま。り。戀。思。案。の。外。と。ど。正通。小。似。げ。る。ハ
 幸。主。の。側。室。と。誘。ひ。や。り。行。未。学。と。あ。り。女。奴。憎。む。男。奴。嘲。り
 くれ。も。あ。り。と。識。り。の。多。り。り。同。話。休。題。節。折。の。夜。と。臈。丸
 と。う。抱。き。正通。小。は。れ。と。ふ。と。東。路。を。赴。り。憂。い。死。する。小。い。や。り。て
 裳。の。露。袖。の。涙。を。を。れ。つ。雨。衣。帯。る。曲。浦。の。柳。々。送。遠。寺。の。鐘。も。哀。ま。は
 權。と。旅。寮。小。青。絲。の。髮。疎。り。の。の。小。老。來。ぬ。ん。と。怪。ま。紅。玉。の。膚
 消。る。は。難。面。命。分。う。と。日。數。の。り。り。信。濃。路。や。岐。岨。の。棧。程。ら。旅。寮
 の。里。小。た。と。来。ぬ。ん。り。の。地。へ。夏。寒。く。春。く。ら。と。花。り。る。秋。乃
 くと。め。ふ。黄。葉。く。冬。と。り。り。と。深。雪。を。隆。寒。ふ。毛。の。圍。る。ば。連。山

事ありといふも。今ふ至りて彼を殺す。大丈夫の所為あり。歎の難る
 処いふもなき。汝何とや知り。正通うち驚愕す。誠小思ひし
 ざる椿幸なり。それか父母の元上野國沼田の郷のりあるが父母
 没し。既久しといふも。彼地よこそるは親し。友いふれ其許小
 はひり。さるゝといふ致忠點頭す。とまれかくまき汝がうら小任とて。
 されぬ。彼が身命と誓ふ。とす。とせ。とせ。金子百両。必
 遍与し。別小路貫金。とせ。せられ。正通俄頃。行装し。その夜人
 定り。のら。節折母子。誘ひ。し。あ。び。や。ふ。起。程。り。され。ば。節。折。が
 往方。あれ。ど。かり。と。正通も。又。ち。り。小。亡。命。と。推。量。し。郎。小。奴。婢。と。ま
 くれ。と。あ。ま。笑。ひ。彼。女。子。が。の。来。来。真。実。中。小。給。ゆ。せ。し。主。の。ろ。ろ。灰
 蕩。ん。為。の。新。計。と。あり。と。八月。子。生。り。し。幸。と。め。り。怪。し。う
 思ひし。果して。せ。り。た。女子。ど。し。こ。も。武。界。富。り。る。主。君。知
 詭。の。課。せ。る。飽。足。と。正通。と。奔。り。ぬ。何。ゆ。ど。か。る。淫。婦。の。り。れ。ハ
 ち。筑。摩。の。鍋。の。敷。も。ま。ま。り。戀。思。案。の。外。と。ど。正通。小。似。げ。る。ハ
 幸。主。の。側。室。と。誘。ひ。や。り。行。未。学。と。あ。り。女。奴。憎。む。男。奴。嘲。り
 くれ。も。あ。り。と。識。り。の。多。り。り。同。話。休。題。節。折。の。夜。と。臈。丸
 と。う。抱。き。正通。小。は。れ。と。ふ。と。東。路。を。赴。り。憂。い。死。する。小。い。や。り。て
 裳。の。露。袖。の。涙。を。を。れ。つ。雨。衣。帯。る。曲。浦。の。柳。々。送。遠。寺。の。鐘。も。哀。ま。は
 權。と。旅。寮。小。青。絲。の。髮。疎。り。の。の。小。老。來。ぬ。ん。と。怪。ま。紅。玉。の。膚
 消。る。は。難。面。命。分。う。と。日。數。の。り。り。信。濃。路。や。岐。岨。の。棧。程。ら。旅。寮
 の。里。小。た。と。来。ぬ。ん。り。の。地。へ。夏。寒。く。春。く。ら。と。花。り。る。秋。乃
 くと。め。ふ。黄。葉。く。冬。と。り。り。と。深。雪。を。隆。寒。ふ。毛。の。圍。る。ば。連。山

奇峯巖岫と聳一歩の高く一歩の低く雲を攀霧を分行人路をりし
 るの節折れ疲骨をせんまがひかんえんが正通勸慰ありつ
 道次なる麻衣織出の家不立りしと見くあふ憇ひ構わとむし
 昼食食ふるのたむとまら日たる未下刻之時頻人声く鉦鼓の
 音遠く響めれば正通耳瓜側くあからうづりあまの何ゆぞ向へ土人
 答ふ。さればこのゆつたといと怪し物ごらの世ふ人の愛善者ぞど
 あさましれりのいあぞ。爰より遠良よあらうと筑摩とよる山川あり
 その向ひなる冠山とよ山里小樵夫夫婦ありたりこの人過世のりらん
 病ももろく夫も婦も只目のうらふあまうらぬ迹ふ八十小何す。娘と四
 かならりる女児のこ残りんべ今もあまもてた業りなく。とらるる娘のこ
 聞えりがせめく心瓜厨つこの稚れぬのどし。うや娘の飢ても死ぬ。

孫と世山もあせたりんと塵とくえず也意一がいく経りる。この稚子も
 又死おくれの娘の只掌の中の玉瓜打碎まらるるにて天小舞ひ地ふあ
 げれ物くらう悲を歎死する孫瓜くらもやまど人の諫も聴くして
 生るがごとく添疾のり色うらゆ吻は物咲きとせ程よ目子ありり
 肉壞まあぬ形ふかりぬれどあ何瘞ふあひびる。愛惜のふらんびあ
 した骸骨のつらとまら。あ啖ひ竭く。とらるる里人も害怕してまら
 つらど娘の生るがごとく鬼をかりん。とらるる家瓜狂ひ出老幼男女の差別なく
 啖くうらうその血瓜吸ふ赤れた唇の耳小連り。白く髪は肩より。眼の
 光のふ射す。あまうらうとつらもあらうかり。うらりて麓の二邱と他処
 小務り住く。その迹芒く。郊原とあり。誰よま。冠山瓜。娘
 捨山と噂えり。あまうらふ。彼娘く。その山中小棲る。近曾東西

ろくどあひやうし
老婆愛惜
くらしまごのまごりもごう
啖孫屍圖



二三十里山又つらつらとまき人々悩む。この近郷の農民これに
 防人爲す毎村に隊となり。猪鹿をぞ獵せしがごとく弓矢竹銃と
 りらむ。今のどく折く喊声を揚ぐ。志々ども彼姥のその走ること
 速く。此首の山おろすと又とて。忽ち彼首の峯おのり。いふとせんを
 たり。時昔も野上山の麓ゆく馬追ふ。ゆる男が馬も人も啖ひらる。れ
 らのりゆりゆり。東の路もあは陰く。らぬ花踏とととと。古藤の
 棧とと。いと危死岨もあり。上松より歌野蕭淵まぐ。人里も稀なる。
 夕の影も日も凍れ。あはるく。いふとと。聖くた道づん。合
 せ。越ゆたふ。と。折折。と。主人が。と。骨
 いふと。骨。げ。愛著の。女子。その
 姥。鬼と。人。啖ひ。子。助。公。

鬼小な。思ふ。身。性。歎
 正通の。怖。色。呵。笑。て。の
 村落。旅。稀。假。事。設。言。巧。人。忻。漫。小。銭
 狐。貪。と。謀。の。り。鬼。神。の。名。あり。て。取。は。い。く。人。生。る。鬼。と。る。
 理。あ。ん。や。か。る。事。を。世。の。人。の。怖。る。こ。が。刀。腰。あり。何。の。害。怖。と
 け。た。の。目。も。高。去。来。ま。で。ん。と。ひ。つ。立。出。る。狐。主。人。の。氣。跡。う。ら
 え。や。い。れ。の。彼。人。声。狐。何。ぞ。同。ふ。ふ。ら。て。縁。故。狐。物。が。ら。る。腹
 け。く。も。ま。ま。あ。の。の。今。悔。く。ら。宿。を。と。記。す。い。と。つ。や
 正。通。の。笑。う。顔。く。走。り。出。復。ひ。折。折。扶。引。東。を。望。み。去。り。ぬ

四天王剽盜異録卷之一畢

